

### 第3回 栗東市農業振興基本計画等策定委員会 議事要旨

日 時	令和3年5月19日（水）14:00～16:00	
場 所	栗東市役所危機管理センター3階 大研修室	
出席者	【委員】	香川文庸委員（委員長）、川嶋忠良委員（副委員長）、 谷口敏彦委員、中井栄夫委員、竹村明委員、田中康人委員、 中井あけみ委員、林優里委員
	【オブザーバー】	滋賀県大津・南部農業農村振興事務所
	【事務局】	栗東市産業経済部農林課 株式会社パスコ
欠席者	【委員】	武村秀夫委員、猪飼正道委員、駒井三郎委員、奥村貞義委員
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. あいさつ</li> <li>3. 委員委嘱</li> <li>4. 説明事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)基本計画の概要及び検討の経緯について</li> </ol> </li> <li>5. 協議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)基本計画について</li> </ol> </li> <li>6. 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)栗東農業振興地域整備計画について</li> <li>(2)地域説明会の実施について</li> </ol> </li> <li>7. その他             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)次回開催日程について</li> </ol> </li> <li>8. 閉会</li> </ol>	

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ

- ・事務局によるあいさつを行った。

#### 3. 委任委託

#### 4. 報告事項

- (1) 基本計画の概要及び検討の経緯について
  - ・事務局より資料の説明を行った。

#### 5. 協議事項

- (1) 基本計画について

- ・以下、主な意見。

## ■ 1. 栗東健康安心・ブランド『栗東イチジク』促進プロジェクト

### (栗東イチジクについて)

- 委員：イチジクは品評会でも好成績で、引っ張りだこだが、イチジクは季節柄で、一年を通して生産はできず、認定農業者がイチジクだけで生活するのは難しい。
- 委員長：市として、イチジク1つに絞りたいという意図をお持ちなのか。
- 事務局：必ずしもイチジクだけにこだわっているわけではなく、策定委員会で議論をしていただくための案として出している。

### (その他の農作物の特産品化、ブランド化について)

- 委員：栗東であればクリで色んなものを作っていきたいと思い、商工会でも取り組んでいる。
- 委員：イチゴは、イチジクと同様に長距離の輸送に耐えられないため、他の産地から輸送しにくい。栗東市で食べられているイチゴは、栗東産以上に他の産地から入ってきているのでいくら作っても足りないと思う。そういう意味ではイチゴも良いのではないか。
- 委員：中山間地で高齢化が進んでいる地域は獣害も少なく、鎌1つで収穫できるクレソンやミツバのような作物を生産してはどうか。
- 委員：米を植えるだけが農業ではない。果樹も農業。田んぼに果樹の苗を植えるのも方法だと思う。
- 委員：新たな特産品の開発。計画期間の間に新しいものが開発できる土台づくりも視野に入れて計画を策定して頂きたい。
- 委員長：特産品は、いくつか種類がある方がチャンスも増え、リスクにも強いと感じる。
- 委員長：個人的には「イチジクをはじめとした地域の多様な農産物」とするのがいいのかという気がする。

### (特産品化、ブランド化に向けた取組)

- 委員長：「生食状態でブランド化」と「加工してブランド化」とでは毛色が違い、加工するとなれば地元の企業や産業とコラボレーションか、農商工連携が考えられるかが重要となる。
- 委員：ブランド商品を作るのには、年数が必要になってくる。イチジクの生産や加工品のよう誰が先導するのか、誰が一生懸命するのが重要である。
- 委員長：実際にブランド化や産地づくりをするとすると、それに行政がどれだけ支援できるのかと育つまでの間、農業者がどこまで辛抱できるかが重要となってくる。
- 委員：補助金ではなく、自腹でやっているような生産者にもっと支援していくべきではないか。ブランド化に向けては、年数をかけ一極集中で、農業振興会、JA、行政側が1つか2つ推してやらないことにはできない。
- 委員長：特産品は、1つか2つに選択して絞った方がよいという意見が出た。これは選択と集中という一つの有力な手段となるが、それをやっていない農家に対して若干の不公平感が出てくるので、例えばイチジクやクリを生産していない農家をどう扱うか、転換できる制度や仕組みづくり等のケアが大切になってくる。また、そうなった場合それをさばけ

る市場を用意する必要がある。

委員：以前、山にクリを 1000 本近く植えていると思うが土が悪くて枯れてしまった。土壌が悪いから枯れてしまう。産地化や新しい物を始める際には、良い土地を行政があっせん・仲介していくことはできないか。

委員：行政の指導もだが、農家が今後どういう経営をするか。5 年先、10 年先、後継者がいないならばどうするか等、農家自らがこうしたいと行政に発信しなければ行政もどうすればよいか分からないと思う。農家としてはそのような考えも持つべきである。

#### (健康・安心な農産物について)

委員：無農薬やオーガニックが流行している中で、健康的な食事とは何か、安心とは何か。とても大事だと思うので、できれば健康・安心なブランドがいいのですが、それが実際にできるのかは疑問。

委員：国内産の農産物は海外と比べると当然、値段も高く、倍以上する中で、日本人に受け入れられるのは安全である事、誰が生産しているかが分かることである。「安全・安心・健康」を除外して、これから先はないのではないか。

副委員：農協の直売所も事細かなことまで表示はできない。生産者自らしっかりと表示をしていただく。その情報を保存しておく、記録しておくことが大事になってくる。

委員：パッケージの裏に使用した農薬等記載しているが、見る人は少ない。小学校や保育園、幼稚園児の食育ではなくて、消費者、お母さんたちに食育活動をもっと勉強してもらいたい。選択肢があるのだから、良い物を選んでもらうことが大事ではないかと思う。

委員長：良いものを作れば高く売れる。これは正しい理屈だが、格差社会、貧困社会が日本の中にあって、価格競争を考えたときに、競争力という観点からすると弱くならないのかという気もする。

## ■ 2. 栗東農業の次代を託す担い手・農地強化プロジェクト

#### (農業経営の将来設計について)

委員長：全体像として、栗東農業の将来的な規模、スケールはどう考えておられるのか。どれだけの農地にどれだけの数の経営がいるのが適切なのか。個々の規模はどの程度なのか。次回議論のたたき台として、栗東市の農業経営や農業構造について将来像の設計図を描いていただきたい。

県職員：栗東の農地を安定的に守るには 100ha を超える経営にしていけないと、継続的に人は育っていないし、雇えないのではないかと感じている。

副委員：経営も大事だと思うが、農家は地域を支えてきたという部分が非常に大きいと思うので、地域のコミュニティを守るといことも考えて将来設計して頂きたい。

#### (新たな担い手について)

委員：チャレンジ農業塾で若い人を呼びかけるのはよいが、その人たちが生活できるような施策が必要ではないか。

委員：高齢化が進む集落営農に対して、行政など、組織同士が合併や連携をして、職員を雇っ

て何とかしていこうという動きがある自治体もある。高齢化で悩んでいるいくつかの集落が連携して職員を増やして専門的な人を置くことをしないと継続は難しいのではないかな。

### ■ 3. 生産者と消費者をつなぐ農“縁”づくりプロジェクト

#### (市民農園、貸し農園について)

委員長：最近、都市において貸し農園、体験農園が一つのブームになっている。それを後押しするような法制度もできているので、こういう形で農業と市民をつなぐことが考えられないかな。

委員長：都市においては、市民農園と貸し農園を作ればそれでよいという風潮が強く、それでよいのかと常に思っているところでもある。あるいは、割り切って、都市はすべて都市にしまい、農地は農地でまとめて力を入れた方がいいような気がする。

委員：今期から各農家で市民農園を経営したいという方々を募り、5月か6月に、市民農園を開くためにはどうすればよいか、勉強会を開催する予定。

#### (子ども達への農業教育・農業体験について)

委員：農業体験は、市民、あるいは学校等々の教育関係との連携は今でもやっていると思う。子ども達が大人になった時に農業に係ってもらうことが大切なので、今までどおり気長に継続していくことが必要ではないかという思いである。

委員長：他市では、学校教育という中で、人間や予算、時間は出せないため、農業関係で将来の農業者を発掘するための先行投資として行動をすることが必要ではないかと議論をしたという経緯がある。このプロジェクトを立ち上げるにあたって、そういうことを考えないといけないと感じる。

#### (市民交流に向けた取組について)

委員：基本計画（構成案）に記載されているように食育事業や市民農園、学校教育、空き家問題など様々なところと関連しているため、農林課だけでなく、教育委員会や商工観光課など市役所内でしっかり連携をとるのが良いと思う。

委員：マンションに住んでいても、ベランダでガーデニングをしたり、栗東の駅前でも貸農園を探している人が多いという話を聞く。一方で集落内では高齢化により空き家が増えていくことから、家庭菜園付きの家など、行政に間に入ってもらうことで都市部からIターンしてもらえるようにするとよいのではないかな。

### ■ 4. 委員長まとめ

委員長：原案どおり、3本のチャレンジプロジェクトを柱に基本計画を練っていただくことになる。継続審議にさせていただきたいと思うのが栗東健康・安心ブランドの中身。イチジクとクリに注力し、それに絞って重点的に施策を講じていくのが1つの方向性ではないかな。そうするのであれば、脇を固める取り組みをしておかないとうまくいかないかな。これについて考える必要があるということ。また、2番目の担い手・農地プロジェクト

に関しては、基礎資料、次の議論の資料になりそうな、たたき台としての資料を作っていただきたい。

## 6. 報告事項

(1) 栗東農業振興地域整備計画について

(2) 地域説明会の実施について

- ・事務局より栗東農業振興地域整備計画の市としての考え、方向性について説明を行った。
- ・事務局より地域説明会の実施についての説明を行った。

## 7. その他

(1) 次回開催日程について

- ・次回開催時期は8月を予定しているが、コロナ等の関係で延期の可能性もある。

## 8. 閉会